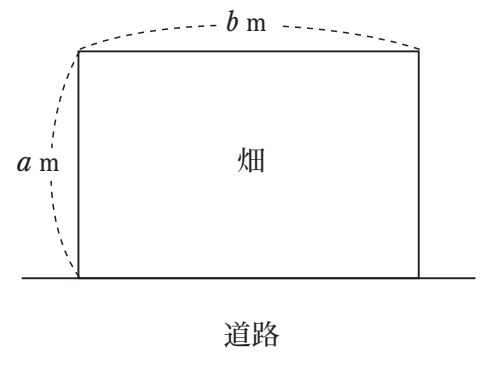
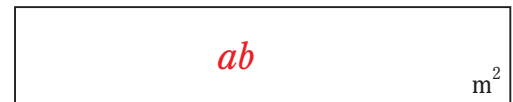


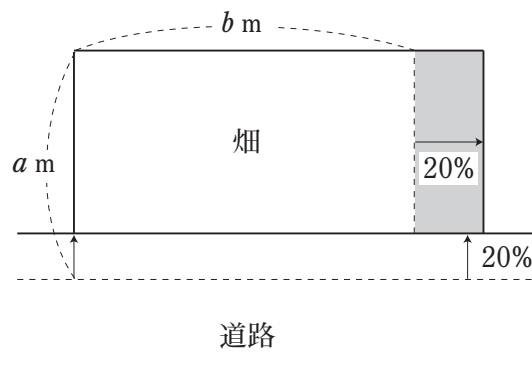
- 蓮<sup>れん</sup>さんの家には、右の図のように、道路に面した場所に縦  $a$  m、横  $b$  m の長方形の形をした畑があります。次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。



- (1) 蓮さんの畑の面積を、 $a$ 、 $b$  を用いた式で表しなさい。



今度、畑の前の道を拡張する計画があり、蓮さんの家の畑は、縦が 20% 減少することになりましたが、その代わりに、横を 20% 増加してもらうことになりました。下の図は、その様子を表したものです。



畑の広さはどうなるのだろう。長方形の畑の縦が 20% 短くなったけれど、横が 20% 長くなったので、面積は変わらないと思うけれど。

(2) 連さんの考えは誤っており、実際は4%減少します。その理由を書きなさい。

縦が20%減少するので、縦の長さは、 $0.8a$  m  
横は20%増加するので、横の長さは、 $1.2b$  mになる。  
したがって、変更後の畑の面積は、 $0.8a \times 1.2b = 0.96ab$   
もとの畑の面積は、 $ab$  m<sup>2</sup> だから、 $ab - 0.96ab = 0.04ab$  より、  
4%減少する。

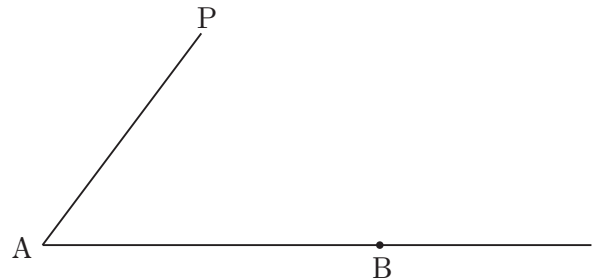
(3) 畑の面積が変わらないようにするには、横の長さを何%増加してもらえばよいか。求める式と答えを書きなさい。

式  $ab \div 0.8a = 1.25b$

答え 25 %

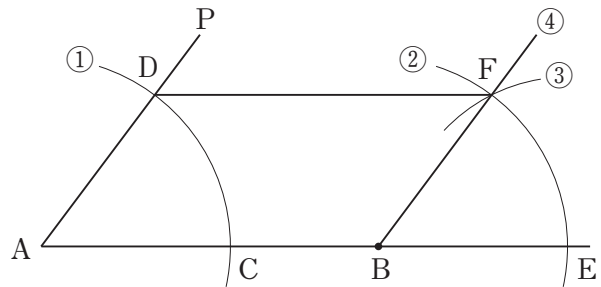
■ 陸<sup>りく</sup>さんは、平行四辺形について考えています。次の(1), (2)の問題に答えましょう。

(1) 陸さんは、右の図を使って、平行四辺形を次の手順で作図し、その作図が正しいことの証明を考えました。



【陸さんの手順】

- ① 点 A を中心として円をかき、直線 AB, AP との交点をそれぞれ C, D とする。
- ② 点 B を中心として①と等しい半径の円をかき、AB との交点を E とする。
- ③ 点 E を中心とし、線分 CD と等しい半径の円をかき、②の円との交点を F とする。
- ④ 直線 BF をひく。
- ⑤ D と F を結ぶ。



陸さんは、作図をしているとき、 $DA \parallel FB$  であると予想し、このことをいうためには、 $\triangle DAC \equiv \triangle FBE$  を証明すればよいと考えました。

㉞  $\triangle DAC \equiv \triangle FBE$  を証明するための合同条件を書きなさい。

3 組の辺がそれぞれ等しい

① 陸さんは、 $\triangle DAC \equiv \triangle FBE$  を証明したあと、 $DA \parallel FB$  であることを次のようにいいました。  
には、図中の記号を用いて、 $DA \parallel FB$  をいうために必要な条件を、には、最も適することばをそれぞれ書きなさい。

よりが等しいので、 $DA \parallel FB$  である。

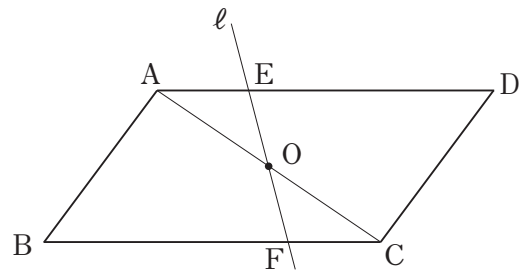
②  $\angle DAC = \angle FBE$

③ 同位角

- ㊦ 陸さんは、 $DA \parallel FB$ であることを証明した後、「四角形 DABF は平行四辺形である」といいました。このとき、四角形 DABF が平行四辺形となるための条件を書きなさい。

1組の向かいあう辺が、等しくて平行である

- (2) 陸さんは、先生から「平行四辺形の対角線の交点を通る直線は、その平行四辺形の面積を2等分する」ということを教えてもらいました。そこで、右のような図をかき、それが正しいことを証明しようと思います。



直線  $l$  が平行四辺形の ABCD の面積を2等分するということは、  
 四角形 ABFE =  $\frac{1}{2}$  平行四辺形 ABCD ということだね。  
 $\triangle ABC = \frac{1}{2}$  平行四辺形 ABCD だから...

陸さんは、合同な三角形は当然面積も等しいので、 $\triangle AOE \equiv \triangle COF$  を示せばよいと考え、次のように証明しました。陸さんの証明の   を補って、証明を完成させなさい。

**陸さんの証明**

$\triangle AOE$  と  $\triangle COF$  において、

四角形 ABCD は平行四辺形だから、

$AO = CO \cdots \textcircled{1}$

$AD \parallel BC$  より、錯角は等しいから、

$\angle OAE = \angle OCF \cdots \textcircled{2}$

対頂角は等しいから、

$\angle AOE = \angle COF \cdots \textcircled{3}$

①、②、③から、1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいので、

$\triangle AOE \equiv \triangle COF$

したがって、 $\triangle AOE = \triangle COF$

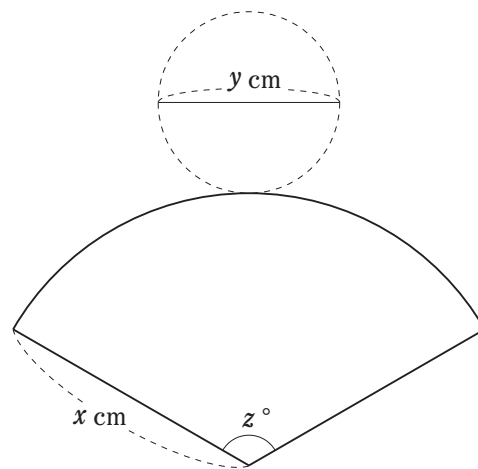
ここで、四角形 ABFE =  $\triangle ABC + \triangle AOE - \triangle COF$

$= \triangle ABC + \triangle AOE - \triangle AOE = \triangle ABC$

$\triangle ABC = \frac{1}{2}$  平行四辺形 ABCD だから、四角形 ABFE =  $\frac{1}{2}$  平行四辺形 ABCD

ゆえに、平行四辺形の対角線の交点を通る直線は、その平行四辺形の面積を2等分する。

- 美咲<sup>みさき</sup>さんは、町内会のお祭りで、ソフトクリームを売る店の手伝いをする事になりました。ソフトクリームのコーンを包む持ち手の部分をスリーブといいます。美咲さんは、このスリーブをつくる事になりました。美咲さんは、スリーブが円すいの形をしているので、スリーブをつくるには、おうぎ形をまるめればよいことに気づきました。美咲さんは、下のような図をかき、スリーブをどのような寸法で作るかを考えています。ただし、のりしろは考えないものとします。また、下の図の点線の円は、スリーブ上端のコーンの切り口の円を表しています。



美咲さんは、上の図から、 $x$ 、 $y$ 、 $z$ の関係を次の式で表しました。

$$y = \frac{xz}{180}$$

次の(1)、(2)の問題に答えなさい。

- (1) 美咲さんは、 $x$ 、 $y$ 、 $z$ の関係について、次のように考えました。

#### 美咲さんの考え

$y = \frac{xz}{180}$  で、 $z$ の角度を決めてしまえば、 $\frac{z}{180}$  は決まった数になるので、 $y$ と $x$ の関係を表す式は、 $y = (\text{比例定数}) \times x$ となり、 $y$ は $x$ に比例する。

同様に考えて、

・ $y$ の長さを決めてしまえば、

・ $x$ の長さを決めてしまえば、

美咲さんの考えの  ㉞,  ㉟ にあてはまるものを, 下のアからエまでの中からそれぞれ 1 つずつ選び記号で答えなさい。

ア  $x$  (または  $y$ ) は  $z$  に比例する。

イ  $x$  (または  $y$ ) は  $z$  に反比例する。

ウ  $x$  (または  $y$ ) は  $z$  に比例しないが,  $x$  (または  $y$ ) は  $z$  の一次関数である。

エ  $x$  (または  $y$ ) と  $z$  の関係は, 比例, 反比例, 一次関数のいずれでもない。

㉞ イ

㉟ ア

(2) 美咲さんは, いろいろと試してみても,  $z$  の角が  $90^\circ$  の場合に, スリーブがコーンをぴったりと包み込むことがわかりました。また,  $y$  の長さが  $4\text{ cm}$  のときの  $x$  の長さが, 一番持ちやすく食べやすいこともわかりました。 $y$  の長さがわかれば,  $x$  の長さを求めることができます。

美咲さんは, 下のアのように,  $x$  と  $y$  の関係を表わす式を求め, イのような  $x$  の値と, それに対応する  $y$  の値を表にまとめました。これらから,  $x$  の値を求め, スリーブを作ろうと思います。下のア, イの中から 1 つ選び, それを用いて  $x$  の長さを求める方法を説明しなさい。どちらの方法を選んで説明してもかまいません。

ア  $x$  と  $y$  の関係を表わす式  $y = \frac{x}{2}$

イ  $x$  と  $y$  の対応表

$x$ (cm)	1	2	3	4	...
$y$ (cm)	$\frac{1}{2}$	1	$\frac{3}{2}$	2	...

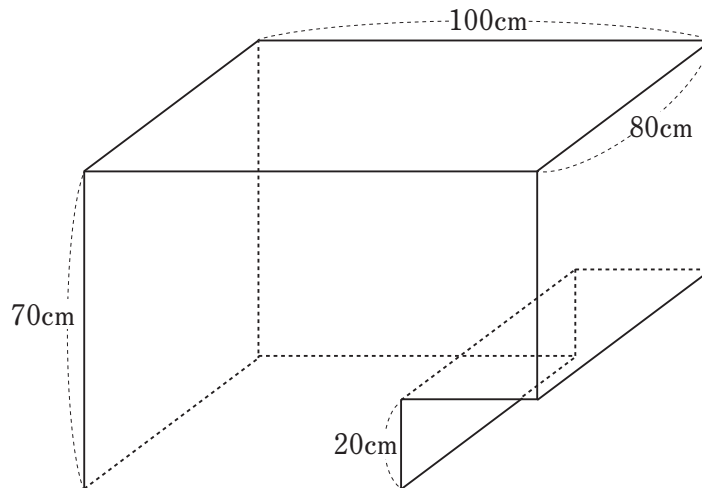
記号 ア

説明 式に  $y = 4$  を代入して  $x$  の値を求める。

イ

$x$  が  $y$  の何倍かを調べて,  $y = 4$  のときの  $x$  の値を求める。

- 百花さんの家の浴そうは、腰をかけることができるようになっていて、その形は、下の図のような直方体を組み合わせた形とみることができます。また、浴そうにお湯を入れ始めると、お湯は一定の割合で入り、浴そうがいっぱいになると、お湯は自動的に止まります。次の(1)~(4)の問題に答えなさい。



百花さんは、お湯を入れ始めてからの時間  $x$  分と、入ったお湯の深さ  $y$  cm の関係を調べ、次のような表にまとめました。

お湯入れ始めてからの時間 $x$ (分)	2	4	6	8	10	...
お湯の深さ $y$ (cm)	10	20	26	32	38	...

百花さんは、上の表から、お湯のたまる様子が、お湯を入れ始めてから 4 分後に変わることに気づきました。そして、 $x$  の変域を、 $0 \leq x \leq 4$  のときと、 $x \geq 4$  のときに分けて、 $x$  と  $y$  の関係を、それぞれ次の式で表しました。

$$y = 5x \quad (0 \leq x \leq 4)$$

$$y = 3x + 8 \quad (x \geq 4)$$

- (1)  $x$  の変域が、 $0 \leq x \leq 4$  のときの  $x$  と  $y$  の関係について、下のアからエの中から正しいものを 1 つ選びなさい。

ア  $y$  は  $x$  に比例する。

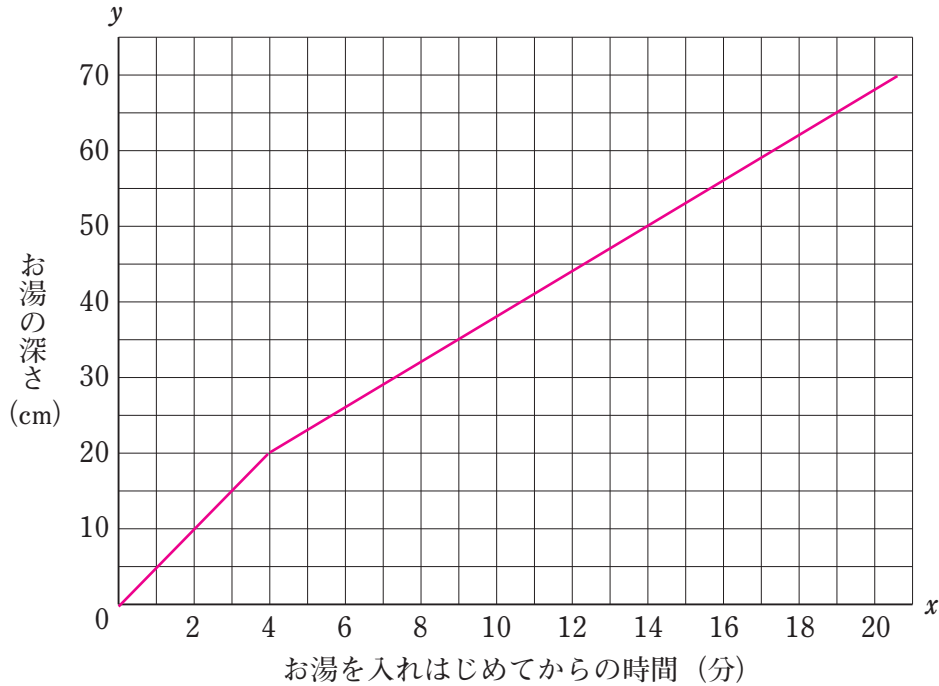
イ  $y$  は  $x$  に反比例する。

ウ  $y$  は  $x$  に比例しないが、 $y$  は  $x$  の一次関数である。

エ  $x$  と  $y$  の関係は、比例、反比例、一次関数のいずれでもない。

ア

(2) お湯を入れ始めてからお湯が自動的に止まるまでの、 $x$ と $y$ の関係を表すグラフを、下の方眼に書きなさい。



(3) 百花さんは、1分間に入るお湯の量が何Lなのかを考えています。浴そうの下の部分では、浴そうの横の長さがわかりませんが、上の部分で考えれば、1分間に入るお湯の量を求めることができます。用いるものを下のア、イの中から1つ選び、それを使って1分間に入るお湯の量が何Lなのかを求める方法を説明しなさい。ア、イどちらを選んで説明してもかまいません。

ア お湯を入れ始めてからの時間と、入ったお湯の深さの表

イ お湯を入れ始めてからの時間と、入ったお湯の深さの関係を表わす式

記号	<b>ア</b>	<b>イ</b>
説明	浴そうの上の部分では、6分後から8分後の2分間で6cm深くなるから、1分間では、 $6 \div 2 = 3$ より、3cm深くなる。	浴そうの上の部分を表す式 $y = 3x + 8$ の傾き3は、1分間に3cm深くなることを表している。
	よって、1分間に入るお湯の量は、 $80 \times 100 \times 3 = 24000$ $24000\text{cm}^3 = 24\text{L}$	
		答え 24 L

(4) 百花さんは、浴そうに55cmの深さまでお湯を入れようと思います。55cmの深さになるのは、お湯を入れはじめてから何分何秒か、求めなさい。

式	$y = 3x + 8$ に $y = 55$ を代入して、 $55 = 3x + 8$ $x = \frac{47}{3}$
	$\frac{47}{3}$ 分 = 15分40秒
	答え 15 分 40 秒



中 2 数学⑤

氏名

／ 3 問

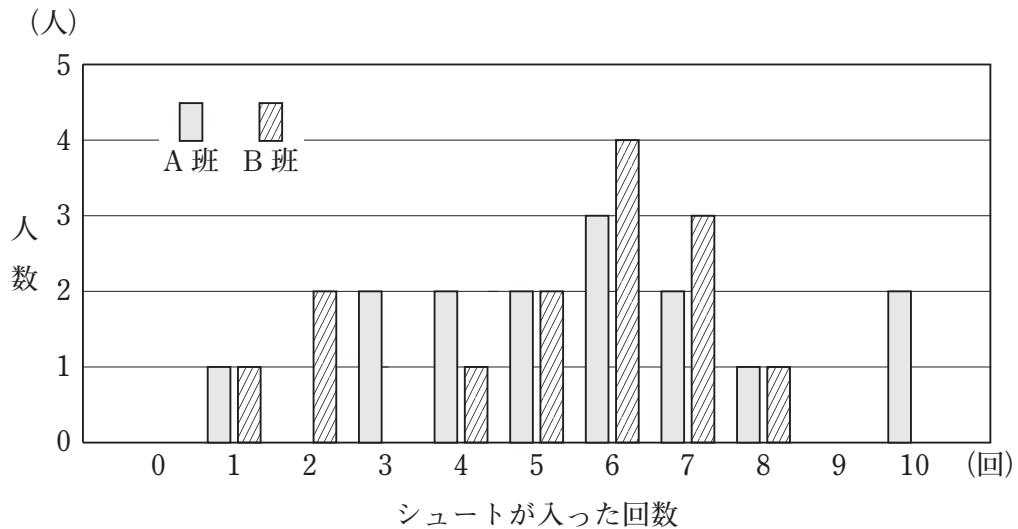
■ 海斗<sup>かいと</sup>さんと翔太<sup>しょうた</sup>さんは、サッカー部に所属しています。ある日の練習で、サッカー部員 29 人が、A 班 15 人、B 班 14 人に分かれて、シュート練習を行いました。シュート練習では、部員全員が 1 人 10 本ずつシュートをして、シュートが入った回数の記録をとりました。海斗さんと翔太さんは、班ごとに記録をまとめ、表とグラフに表しました。



海斗さんが作った表

シュートの入った回数 (回)	A 班 (人)	B 班 (人)
0	0	0
1	1	1
2	0	2
3	2	0
4	2	1
5	2	2
6	3	4
7	2	3
8	1	1
9	0	0
10	2	0
合計	15	14
平均値	5.7	5.1

翔太さんが作ったグラフ



次の(1)～(3)の問題に答えなさい。

(1) サッカー部員 29 人のうち、シュートが入った回数が 3 回未満の人の割合を求める式を、下の 1 から 4 の中から 1 つ選んで、その番号を書きなさい。

- 1  $(0 + 1 + 0 + 2) \div 15 + (0 + 1 + 2 + 0) \div 14$
- 2  $(0 + 1 + 0 + 2 + 0 + 1 + 2 + 0) \div (15 + 14)$
- 3  $(0 + 1 + 0) \div 15 + (0 + 1 + 2) \div 14$
- 4  $(0 + 1 + 0 + 0 + 1 + 2) \div (15 + 14)$

4

(2) 2 人は、記録をまとめた結果について、話し合っています。

海斗さん 「平均値は、A 班の方が高いので、A 班の方がシュートが決まりやすいといえるね。」  
 翔太さん 「そうかな。平均値だけでは判断できないのではないかな。グラフ全体を見ると、A 班の方がシュートが決まりやすいとは言い切れないと思うよ。」

グラフをよく見ると、翔太さんの言うように、「A 班の方がシュートが決まりやすいとは言い切れない」と主張することもできます。そのように主張できる理由を、翔太さんのが作ったグラフの A 班と B 班の結果を比較して説明しなさい。

A 班のシュートを 10 回入れた部員の 2 人を除くと、グラフの形はほとんど変わらず、この 2 人が平均値を上げているだけと思われる。したがって、A 班の方がシュートが決まりやすいとは言い切れない。

(3) となり町の中学校のサッカー部に、海斗さんと翔太さんの共通の友人がいます。そのサッカー部でも、同じように記録をとったことがあるそうです。右の表は、2 人がその友人から教えてもらった結果です。シュートの入った回数が 5 回と 6 回の人的人数は、消えていて読めなかったため、 $x, y$ としています。このとき、 $x, y$ の値を求めなさい。

となり町の中学校の結果

シュートの入った回数 (回)	人数 (人)
0	1
1	1
2	2
3	2
4	4
5	$x$
6	$y$
7	3
8	1
9	2
10	1
合計	30
平均値	5.2
中央値	5
さいひんち最頻値	6

$1 + 1 + 2 + 2 + 4 + x + y + 3 + 1 + 2 + 1 = 30$   
 より、 $x + y = 13 \cdots \textcircled{1}$   
 最頻値が 6 だから、 $x < y \cdots \textcircled{2}$   
 中央値が 5 だから、30 人の結果を小さい順に並べたとき、15 番目と 16 番目の人は、シュートの入った回数が 5 回である。4 回以下の人は、10 人だから、 $x \geq 6 \cdots \textcircled{3}$   
 ①, ②, ③をすべて満たす整数  $x, y$  は、  
 $x = 6, y = 7$   
 答え  $x = 6, y = 7$